

MI T S U B I S H I

三菱パーソナルコンピュータ **apricot**

ソフトウェアご使用の手引き

プログラム名	: HYPERSTAGE IIクライアント運用環境 サイレントインストール版
プログラム番号	: A71KR017
版名	: E30版
作成年月	: 2003年10月
ご使用の手引き	
作成年月	: 2004年 6月
主記憶容量	: 64MB以上 (Windows®2000使用時) 128MB以上 (Windows®XP使用時)
著作権者	: 三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

★ Microsoft®, Windows®, Microsoft® Windows®2000, Microsoft® Windows®XP は、
米国マイクロソフト社の商標もしくは登録商標です。

1. はじめに

HYPERSTAGE IIクライアント運用環境（以下、HYPERSTAGE II）は、クライアント端末をDP-U Xサーバ及び、Windows サーバと接続し、業務を実行するためのソフトウェアです。HYPERSTAGE IIを使用すると、Windows のウィンドウ操作によって、サーバとクライアント端末を接続して、目的の業務アプリケーションプログラムを実行できます。

また、HYPERSTAGE IIでは、一回のログインでDP-U Xサーバと、Windows サーバ双方へのジョブ投入／制御が可能です。

本ご使用の手引は、「HYPERSTAGE IIクライアント運用環境サイレントインストール版」のセットアップ方法および、E30版での改良項目等について記述します。

本ソフトウェア製品は、特定の1台のコンピュータにインストールして使用することができます。

[関連説明書]

HYPERSTAGE II ジョブ運用管理説明書<U7-SR00-16A>

2. 必要なソフトウェア／ハードウェア環境

2. 1 ハードウェア環境

- ・パソコン本体装置
三菱パーソナルコンピュータ apricot（推奨）
- ・主記憶メモリ
64MB以上（Windows2000 使用時）、128MB以上（WindowsXP 使用時）
- ・ディスク容量
本製品インストール時には、Windows直下に5.0メガバイト以上の空きとインストール指定ドライブに5.0メガバイト以上の空き容量が必要です。
- ・LANボード
当社推奨LAN制御装置を使用する。（ただし、DP-U X接続時は、ap-BINDが動作するLAN制御装置を使用してください）

2. 2 ソフトウェア環境

- ・パソコン側のOS環境
Windows2000 Professional（サービスパック4適用）またはWindows XP Professional（サービスパック1適用）で動作します。ファイルシステムはNTFSまたはFAT32でご使用下さい。
- ・サーバ側のOS環境
利用形態により下記のどちらか一方または両方が必要となります。

<DP-U Xサーバ接続の場合>

DP-U X B00版以降が必要です。

<Windowsサーバ接続の場合>

Windows2000 Server（サービスパック4適用）またはWindowsServer2003

及び、HYPERSTAGE IIサーバ実行環境 C00版以降が必要です。

- ・その他のソフトウェア環境
＜DP-U Xサーバ接続時＞
端末エミュレータ＜ap-BIND2000＞ A00版以降が必要です。

3. 「HYPERSTAGE IIクライアント運用環境サイレントインストール版」のセットアップ手順

3. 1 HYPERSTAGE IIクライアント運用環境のインストール

再インストールするには、Windowsの再セットアップを行う必要があります。

再セットアップする方法についてはパソコン本体に同梱される「活用ガイド 再セットアップ編」をご覧ください。

- (注1) 「HYPERSTAGE IIクライアント運用環境」単体でのインストールはできません。
- (注2) HYPERSTAGE IIのインストール・ディレクトリは、「システムドライブ：¥MROOT」固定となります。
- (注3) インストール時にHYPERSTAGE IIの初期化ファイルに書き込まれる端末エミュレータap-BINDのインストール・ディレクトリは、「システムドライブ：¥APBIND32」固定となります。
- (注4) 本製品には、HYPERSTAGE IIクライアント運用環境がDP-U X接続を許可するクライアント側のライセンスが含まれています。別途、ライセンスのセットアップをする必要はありません。

3. 2 HYPERSTAGE IIクライアント運用環境のアンインストール

- (1) Administratorの権限のあるユーザでログオンして下さい。
- (2) コントロールパネルで“アプリケーションの追加と削除”をダブルクリックし、“アプリケーションの追加と削除のプロパティ”のウィンドウを表示させます。
- (3) インストールと削除のタブの中に表示されているソフトウェアのリストの中から、“HYPERSTAGE IIクライアント運用環境サイレントインストール版”を選択して、[変更と削除]を押します。この操作により、アンインストーラが起動されます。起動されたアンインストーラの指示に従って、モジュールをアンインストールして下さい。

- (注1) 本アンインストール作業により、DP-U X接続時に必要なライセンスのアンインストールも自動的に行なわれます。

4. E30版での改良項目

(1) Windows2000 ターミナルサービス対応

H Y P E R S T A G E IIクライアント運用環境 E30版より、オープン側（Windows サーバ）接続機能に限り、Windows2000 ターミナルサービスに対応しました。これにより、Windows2000 ターミナルサービスがセットアップされているサーバに当製品をインストールするだけで、各ターミナルクライアントからH Y P E R S T A G E IIのオープン側機能を使用することができるようになり、T C O削減を図ることができます。尚、ライセンスは、H Y P E R S T A G E IIクライアント運用環境を Windows2000 ターミナルサービスで動作可能にするためのH Y P E R S T A G E IIターミナルサービス実行環境、Windows2000 ターミナルサービスで接続するクライアント台数分のH Y P E R S T A G E IIクライアント運用環境および、H Y P E R S T A G E IIクライアント運用環境からサーバに接続するためのH Y P E R S T A G E IIサーバ実行環境が必要です。その他、注意事項については、当製品のヘルプか、H Y P E R S T A G E IIターミナルサービス実行環境のご使用の手引きを参照ください。

(2) イベントログ表示機能改良（その1）

“イベントログ表示”機能のサーバ側のアカウント設定をHYPERSTAGE IIサーバ実行環境の「アカウント設定ユーティリティ」で行えるように改良しました。これにより、サーバ側アカウント設定がHYPERSTAGE IIクライアント運用環境のログイン・アカウント設定と統合されます。従来は、サーバ側で設定するアカウント設定でリモートシェルサーバのアカウント設定が別途必要でした。本改良によりリモートシェルサーバは必要なくなります。尚、イベントログ表示の際、HYPERSTAGE IIクライアント運用環境でログインしているサーバ名（ホスト名）およびログイン名以外を指定した場合は、はじめに“パスワードを入力してください。”のダイアログが表示されますので、指定ログインユーザ名のパスワードを入力してください。

(3) イベントログ表示機能改良（その2）

“イベントログ表示”に自動更新設定機能を追加しました。設定は、画面の下にある“自動更新設定”ボタンを押下して表示されるダイアログより行います。更新時間間隔は、10～65秒の間で設定できます。

(4) 環境設定ユーティリティの改良

環境設定ユーティリティの“業務メニュー項目編集”ダイアログで“既定ディレクトリ設定”を追加しました（下記）。これにより、ジョブ項目を定義するときに“プロシジャ名”にファイル名のみを記述しておけば、実行時のカレント・ディレクトリは既定ディレクトリ設定を変更するだけで設定できます。



[詳細機能説明]

- “既定ディレクトリ”は80バイト以内で、ドライブ名からのフルパスで設定ください。
- “参照”ボタンを押下することにより、“既定ディレクトリ参照”ダイアログから既定ディレクトリを入力できます。
- “業務グループ内の全メニューに反映”ボタン押下で、現在設定している業務グループ内の全業務メニューの既定ディレクトリを現在の設定と同じにします。
- 業務メニュー項目編集の“新規”設定の場合は、“業務グループ内の全メニューに反映”ボタンは無効です。
- 複数の業務グループ（例えば、グループ1、グループ2）で同じ業務メニュー（例えば、“請求入金業務”）を定義している場合、“既定ディレクトリ”は、グループ1の“請求入金業務”メニューとグループ2の“請求入金業務”メニューで別の定義が可能です。
- PCジョブについて、従来からある“カレントディレクトリ”設定は、“既定ディレクトリ”設定に優先されますので、個々の項目ごとに変更する場合は、“カレントディレクトリ”設定と併用ください。
- バッチジョブについて、業務メニューで“既定ディレクトリ”を設定した場合、そのバッチジョブの設定パスがドライブ名からのフルパスでないときは、“既定ディレクトリ”+“¥”+設定パスでジョブ起動されます。

5. 注意事項

- (1) 他プログラムのインストールについて
他のプログラムをインストールするときは、必ずHYPERSTAGE IIクライアント運用環境等の当社製プログラムを終了した状態でインストールしてください。（インストールがエラーになることがあります。）
また、他プログラムのアンインストールを行なうときも同様に、必ずHYPERSTAGE IIクライアント運用環境等の当社製プログラムを終了した状態でアンインストールしてください。
- (2) HYPERSTAGE/DTとの同時起動について
同一クライアント端末でのHYPERSTAGE IIクライアント運用環境とHYPERSTAGE/DTの同時起動はできません。
- (3) インストール・ディレクトリについて
HYPERSTAGE IIクライアント運用環境 DOO版より、インストール・ディレクトリが”x : ¥MROOT¥BIN”に変更になりました。
以前の版の”x : ¥HSSTD¥SYSTEM”下または、HYPERSTAGE/DTの”x : ¥HSDT¥SYSTEM”下の環境ファイルを移行する場合は、HYPERSTAGE IIクライアント運用環境インストール直後であれば、そのまま”x : ¥MROOT¥BIN¥SYSTEM”下に上書きコピーして頂ければ移行できます。

—以上—